

校長室の窓から

## 『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校  
澤田 清人

### 『新たなスタートに向けて』

3月の気温が低かったこともあって、校門の桜が今まさに満開の時期を迎えようとしています。明後日が雨の予報で少々心配ですが、この分なら始業式と翌日の入学式まで美しく咲き続けてくれるのではないかと期待しています。

さて、令和7年度がスタートしようとしています。実は教職員の間では既に始まっています。4月1日が私たち学校に勤める者にとってはお正月に相当する日で、当日の職員朝礼でもそのような話をしました。

今、学校では8日の始業式と9日の入学式に向けて着々とその準備を進めているところです。校長の重要な仕事の一つに校内人事を考えることがあります。新しい人事配置については去年の11月頃から考え始めました。その後、何度も検討を繰り返し、修正に修正を加えながら最終的に決定するのです。それが確定した今、新しい組織での会議が始まります。「どのクラスをどの先生が担当するのか」の授業配当をはじめ、学年や学級の経営方針や生徒指導のあり方などについても検討・確認されます。特に今年度は高校の制服が変わったことをはじめとして、来年度の大改革に向けての校則の見直しなどにも時間をかけました。授業のあり方や授業づくりの中で大切にすべきことについても時間をかけて協議・検討します。学校や生徒にとってはとても大事な部活動のあり方など、放課後の過ごし方についても時間を尽くして話し合います。

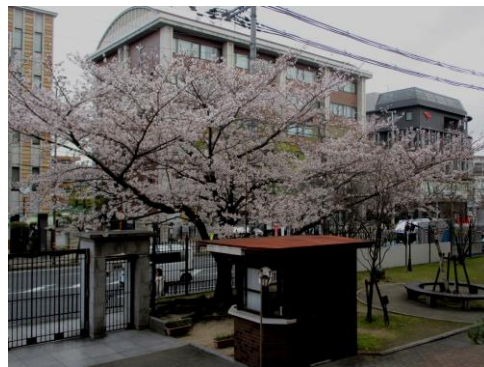
ザッとあげましたが、これ以外のことについても何日も話し合い、全体で、或いは部会で確認していきます。この過程を疎かにすると一年間が上手く回りません。

ところで、こういった会議をする過程で、教職員の頭には常に生徒の顔が浮かんでいます。一つひとつの話合いの中で違った生徒の顔が浮かんでくるものです。自分の受け持つ学級に在籍する“あの子”。授業で受け持つ“あの子”。頭に浮かぶその生徒の様子や予想される行動が、教職員が会議の中で意見を言う際の判断材料なのです。

そのような中、私は26年度の大改革に向けて関係各所を訪問し、内容を説明したり助言をもらったりしているのですが、昨日訪れたところで頂いた助言に大きな力をもらいました。改革を実施しようとする際には、どうしてもその具体的な内容に意識が向くものです。「改革の内容が分かりやすいか」、「新入生にとって魅力的なものになっているか」等です。その点に助言を求めたところ、その方は次のように仰いました。

「そんな具体よりも、先生方の“やる気”と“自信”とが見えることが大事だと思います。京都光華には素晴らしい取組がたくさんあります。教職員全員が今やっておられる実践に自信をもって生徒を迎える姿勢こそが大事だと思います。」

大切なことに改めて気が付きました。生徒や保護者の方と一緒に、あらゆることに対して全教職員が自信をもって取り組める一年間になるよう十分に準備を整えます。



校門の桜の木